

みやさぽ通信



VOL. 12

2025年8月6日

<https://www.miyasapo.net>

認定NPO法人 みやっこサポート

〒662-0034 西宮市西田町6-5

e-mail : nakashima-e@miyasapo.net



ホームページ



FACEBOOK



YOUTUBE

法人設立9周年、活動を始めて10年。
巳年の今年は、10周年という大きな節目
を前に、ヘビが脱皮して成長するように
もう一段階脱皮し成長する年にする為に
多角的な意見を取り入れながら、進めて
いきたいと思います。

これまでの9年間は
「社会の中で何が求められているのか？」
「私たちにできることは何か？」
と問い続け、手探りで活動に変えてきた
日々でした。
思いがあっても続けられなかった活動も
あれば、仲間と育て大きくなった活動も
あります。



そうして時とともに進化し、今の形になりました。
こども食堂やこども弁当、フードパントリーといった「食」や「居場所」に取り組む活動。
不登校のこどもたちの居場所『フリースペースIROHA』から始まり、学びの場『IROHA
らぼ』へ、そしてこどもたちとともに取り組む収益事業『IROHAブランド』へ、さらに
『ラチェリアン放課後等デイサービス』の立ち上げへと、ニーズを持つこども達に寄り添う活動
は大きく成長してきました。

「すべての人が暮らしやすいまちづくり」を目指し、地域に必要な支援を模索し、挑戦し続けた
9年。
次の10年は、この積み重ねた活動を「地域に根づく支えの仕組み」として、安定して継続でき
るよう、運営基盤を整えていきたいと考えています。

「走り続けた十年」から「大きく根を張る十年」へ。
ここからまた、進んでいきたいと思います。
引き続き、どうぞ温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人みやっこサポート 理事長 中島 恵美

こども支援

こども達の元気をとりもどす！



フリースペース IROHA
学校に行かない、行きたくない
こども達が楽しむ居場所

活動：月・水・金曜日 9:00～15:00
125日
のべ人数：こども 936名
ボランティア 121名



IROHAらば
学校に行かない、行きたくない
こども達の学び場

活動：火曜日 10:30～12:00
44日 13:00～14:30
内容：衣装作り、英会話、ギター
料理、ボードゲーム
のべ人数：こども 212名参加
講師・スタッフ 133名参加



IROHAブランド
こども達と、この居場所を運営して
いくために立ち上げたブランド

■IROHACURRYの販売

活動：第1木曜日
のべ人数：こども46名 大人62名



■IROHA食堂（出店）

活動：8/3 大社小学校盆踊り



みやっこ食堂

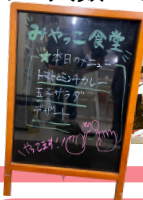
こどもたちが、おなか一杯食べて、楽しく遊ぶ
こども食堂！

■ランチ

活動：月・水・金曜日 12:00～13:00 127回
のべ人数：こども 841名・大人 691名

■晩ご飯

活動：月2回 24回
のべ人数：こども 1,058名・大人 241名



みやっこ弁当

活動：火曜日 49日
弁当数：1,429個
家庭数：10軒



無料学習教室

こども達が楽しく
勉強する居場所は
休止中

ラチェリアン放課後等デイサービス

活動：月～金曜日
平日 14:00～17:00
休校日 11:00～17:00
127日

のべ人数：
こども 860名



IROHAのこども達が 参加したイベント

IROHA文化祭
9/15

こども会議
月1回



こどもフェスタ
11/17

秋の遠足
須磨シーワールド
12/9



交流支援

地域でつながりをつくる！

生活サポート

地域での生活を
サポートする！

歌の教室＆食堂
(シニアの集い場)

活動：月1回 木曜日
10:00～12:00 11回
のべ人数：42名



食サポート
(フードパントリー)
第1火・水曜日

相談支援
(地域の相談窓口)
活動：随時

生活サポート
(家族代行サポート)
活動：随時
家庭数：7軒

わたしたちの活動

「こどもの第3の居場所なぜ必要なの？」

生きることがつらいこども達

日本の10歳～40歳までの死因の一位は自殺

日本は、世界の中でも深刻な問題を抱えています。
10代のこどもの死因の第一位が「自殺」。こどもの数は減っているのに、自ら命を絶つこどもは増えている。
この事実を持つ国は、世界で日本だけです。

8年前、私たちは西田公園の前に小さな事務所を構えました。広くて緑豊かなこの公園のそばで、多くのこどもたちと出会ってきました。
こどもたちは、公園でケガをすると、保健室のようにこの場所にやって来ます。ほとんどは小さなすり傷ですが、ある日は木から落ちて腹部を打った子が、また別の日には足の指をぎっくりと切った子が入ってきました。

応急処置をしながら「お母さんに連絡しよう」と言っても、どちらの子も連絡をしたがりません。何度も話して、ようやくお仕事のお母さんに連絡を入れましたが、その後も「塾に行かない」と痛みをこらえて出ていこうとするのです。
「お母さんケガしちゃった。今日は塾に行けない」と言えないのだと、その姿に胸がしめつけられました。
親御さんは、こどもの将来を思って塾に行かせているのでしょうか。けれど、身体や心、命を守ることこそが、こどもを守ることなのに。
どうして、こんな社会になってしまったのかと、深く考えさせられました。

私も子育てをしていた頃、今のように深くこどもの心に寄り添うことを考えられていたわけではありません。この活動を始めて、初めて気づいたことや、知ったことがたくさんあります。
息が詰まりそうな社会の中で、生活を守るために精いっぱい親御さんたち。
こどもに余裕がないのは、大人が余裕を持てないからかもしれません。
だからこそ、こどもの声に耳を傾ける役割を担うのが、「第3の居場所」の大人たちなのだと思います。

家でも学校でも、「～しなければならない」という重圧に追いつめられ、「つらい」「助けて」と声をあげることもできないこどもたち。
そして、心配しながらも、知らず知らずのうちに追いつめてしまっている大人たち。
この場所で、私たちはその社会の歪みを、こどもたちを通して見続けてきました。

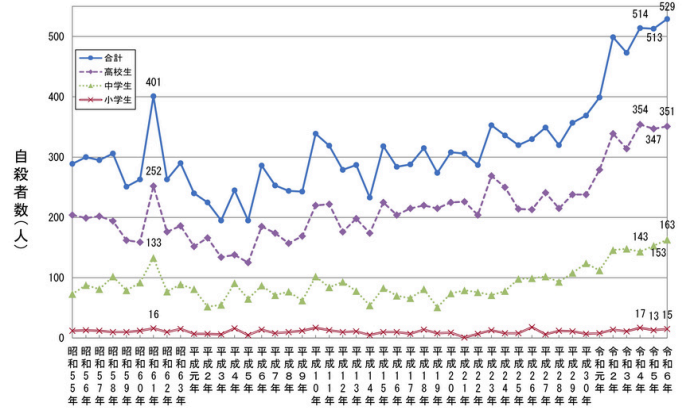
不登校のこどもが増えているのも、「わがまま」や「甘え」ではありません。
彼らは、生きるために立ち止まっているのです。

私たちはここに、評価もなく、失敗しても責められない、「ありのままの自分」でいられる、安心できる空間を、こどもたちとともに創ってきました。それが「第3の居場所」です。
話してもいい。話さなくてもいい。でも言いたいことがあれば言える場所。
ひとりでいてもいいし、誰かと遊んでもいい。
こどもらしく思いっきり遊んで、声を出して、好きなことに夢中になれる場所。
そんな居場所があること、自分を大切に思ってくれる大人が一人でも多くいること。
それが、こどもたちの「生きる力」を支えるのだと、私たちはこの場所で、こどもたちから教えてもらいました。

こどもたちが、自分の人生をしっかりと生きていけるように。
そして、苦しくなったときには安心して戻ってこられるように。この場所を、これからも守り続けたい。
西田公園に響くこどもたちの声を聞きながら、心からそう願っています。

「2024年 厚生労働省の資料」

図表3-1 小中高生別自殺者数の年次推移



今年始めた活動

西宮×能登 復興支援プロジェクト開始！

■『能登の珠洲市でボランティア活動』

2025年5月3日(土・祝)～ 5月4日(日)

スタッフ、みやサポのボランティアさんの6名で参加。現地で継続的な支援を行っている『Gaia復興支援プロジェクト』の代表の岡嶋さんに支援物資をお渡しし、全国から集まるボランティアの拠点の整備をしました。



これからの主なイベント 2025(R7)年9月～

■『能登の珠洲市へボランティア』

2025年9月27日(土)～ 9月29日(月)

■『今年の秋の遠足は“淡路”へ！』

2025年10月11日(土)

■『にしのみやこどもフェスタ2025』

2025年11月29日(土)



こどもフェスタ
ホームページ

こどもたちの“今”と“未来”を支えてください

■ご寄付でのご協力をお願い致します

【寄付の種類】

- マンスリー会員：毎月定期的なご寄付で応援する会員(1,000円～)
- 賛助会員：毎年、年間3,000円の会費で応援する会員
- 都度寄付：寄付をしたいときに、ご自分の希望する金額のご寄付で応援する
- ご寄贈：お米など、食材のご寄付(賞味期限や食品の状況で受け取れない場合もありますので、ご了承ください)

【お申込み方法】

- 法人ホームページ ご寄付・賛助会員の受付にて

<https://www.miyasapo.net/support/>

- 直接事務所へ

当法人事務所へお電話いただき (0798-81-5301)

平日のAM10:00～PM16:00にお越しください

住所：西宮市西田町6-5 夙川サンらいふ（阪急高架下）



マンスリー会員
募集

寄 付



認定NPO法人へのご寄付は、税制優遇の対象となります

- 個人でご寄付された場合、寄付金額の最大約50%が減税になります
- 法人で寄付された場合、法人の損金算入限度額が拡大されます
- 相続した財産を寄付すると、その分の相続税が非課税になります